

優良技術者表彰 受賞者インタビュー

土木技術者の日頃の研究・研鑽を称え、技術者表彰規程に基づき、優良技術者の表彰を毎年行っています。今年度受賞された今村さんに工事のポイントや日々の業務について伺いました。

vol.3 株式会社竹中道路
今村 成昭さん (R1国道14号亀戸地区舗装修繕工事 監理技術者)



受賞：R1国道14号亀戸地区舗装修繕工事

<主な工事内容>

国道14号亀戸地区における、
延長1,700mの道路舗装補修工事

高層マンション、商業施設等が建ち並ぶJR亀戸駅前の道路舗装補修工事。着手前から公共交通機関（鉄道、バス、タクシー他）と綿密な調整を行い、地域住民の要望に最大限配慮した工程計画を立案し、実施。工事は騒音・振動低減に配慮しながらICT技術を使用して作業期間短縮に努め、無事故無災害・無トラブルで竣工した。

土木の「道」へのプロローグ

幼い頃に見た土木技術者の姿に魅せられて

地元が鹿児島県の桜島にほど近い場所で、カルデラという特性上、雨が非常に多く降る地域でした。そのため自然災害を子どもの頃から経験してきました。あるとき、ガケ崩れで通学路が使えなくなってしまったのですが、道路の復旧に土木技術者の方々が尽力してくださいました。日常生活が元通りになることをとてもありがたく感じるのはもちろん、とにかく現場で従事している皆さんがかっこよく見えたんです。それがこの仕事に就くきっかけであり、原点ですね。

数々の経験が、日々の業務に活かしている

入社以来様々な業務に携わってきました。短期間ではありましたが、現場だけでなく、アスファルト合材の製造や品質管理を学び、竹中グループの技術研究所にも2年間研修生として従事しました。現場も高速道路や空港、海外も含めていろいろな場所での施工を経験しています。なかでも羽田空港での



道路工事はとても印象に残っていますね。空港ということで構造が複雑で、道路の切り替え回数も多かったのが調整や段取りが大変でしたが、やりがいや達成感がありました。今では自分がその道路を使うこともあるので「いい仕事できたな」と感じています。若手の頃に少し大変な想いをしても、それが後に「経験」として自分を助けてくれて、日々の「いい仕事」につながっているのも、とてもよかったなと思っています。



交通量の多い道路の補修工事

日常生活への影響を最小限に工事を実施

今回担当したのは、国道14号亀戸地区の道路舗装修繕工事です。この区間はJR亀戸駅前交差点を含む大規模な国道で、上下線合わせて最大8車線にも上る幅員のある道路です。また、舗装の状態から緊急性を要するものだったので、都心の大動脈の道路をいかに素早く、安全に、かつ日常生活への影響を最小限に施工するかということが最大のテーマでした。これらをクリアすべく、所轄警察と十分に話し合っただけで交通規制計画を提案したのはもちろん、施工的な課題であった、見かけ上は区別がつかない、路盤に旧来のコンクリート版が残存する交差点の工事も施工法を提案し、住民対策（音や振動の低減）を考慮しながら短期間で終わることができました。おかげで大きなトラブルなく完遂できたかなと思います。施工完了後に行った住民アンケートでも、工事の影響は少なかったとの回答をいただくことができ、ホッとしましたね。



食べて、動いて、癒されて 休日は趣味の時間を大切に

普段は「インフラを守る」という使命感もあり、気の抜けない場面も多いですが、休日はその分切り替えて趣味を楽しんでいます。家族旅行で季節の美味しいフルーツを食べたり、仲間とゴルフに出かけたり。休みにしっかりと英気を養うことで、仕事にもいいモチベーションで挑めているのかもしれませんが、休日以外でも、日課として飼っている犬との散歩もリラックスできる時間ですね。



インフラを支える魅力を若い世代にも 日々の努力が糧となり、その継続が道となる

今回このような表彰を受けることができ大変うれしく、光栄に思います。「生活に不可欠なインフラを支えているんだ」というやりがいや社会に必要とされる喜びを感じることができて非常に幸せです。また、この気持ちを若手にも味わってほしいとも思っています。入職者の減少が叫ばれる建設業界ですが、少しでも興味があったらぜひチャレンジしてほしいです。大学での専門的な勉強が必須というわけではありません。もちろん知識があるに越したことはないですが、入ってからでも学ぶことはできます。計画的に行動して、結果をしっかりと次に活かすことができる人、地道に継続してものごとを進められる人、こんな人が輝ける業界だと思うので、そんな人といっしょに働ける日を楽しみにしています。そのため自分の経験を社内研修で伝えるなどして貢献していければと思っています。

